

PCでの閲覧をおすすめします(スマートフォンでもご覧いただけます)

## レベル別「分析ノート」のサンプル

### (Basic: Accident)

2-2 A traffic accident! Tell me what actually happened.

**意味:** 交通事故か！実際には、何が起こったの？

**【同時通訳】** A traffic accident! (交通事故か！) Tell me (教えてよ) what actually happened. (実際には、何が起こったのか)。

**【表現】** Tell me～: ～について教えてね。 what actually happened. この文の what は、疑問詞の‘何’ですが、主語になっています。動詞は happened です。意味は「何が起こったのか」です。 Who opened the door? (誰がドアを開けたのか)と同じ文構造です。

**【文構造】** この文の基本構造は、「ボクに～を教えてね」、であり、SVOO 文型です。S は命令文なので省略されます。V は tell です。最初の O(人)は me です。2つ目の O(物)が what actually happened です。文法的には、名詞節と言います。節とは主語と動詞がある単語の集まりです。この節が O(物)の役割をしています。O(物)は名詞が多いので、「名詞節」と呼んでいます。

### (Intermediate: Global issue)

2- Most of the ice in Antarctica will probably melt.

**意味:** たぶん、南極の大部分の氷が溶けるでしょうね。

**【同時通訳】** Most of (～の大部分) the ice in Antarctica (南極の氷) will probably melt. (たぶん溶けるでしょう)

**【表現1】** Most of the ice in Antarctica (南極の大部分の氷)。Antarctic (南極の:形容詞)。

**【表現3】** will probably melt (たぶん溶けるでしょう)。100%の確信がない場合に probably が使われる。確信があれば、surely, certainly, definitely, がよく使われます。

A 3-degree rise will have such a significant impact.

**意味:** 3℃の上昇はそれほど大きなインパクトがあるのよ。

**【同時通訳】** A 3-degree rise (3度の上昇) will have (～があるだろう) such a (そんな) significant impact. (大きなインパクト)。

**【表現・注意】** A 3-degree rise (3度の上昇)。ここで表記の注意です。「3度」は「上昇」を説明しています。つまり「3度」は、名詞である「上昇」を説明する形容詞です。形容詞は1語と考えて、3-degree とハイフオン「-」を付けます。他の例: 5歳の男の子 = a 5-year-old boy. とハイフオンが2つ必要です。(数字を表記する場合は、five-year-old、と、数字の5を five と文字にする方が一般的です)。

**【表現2】** will have such a significant impact. (それほど大きなインパクトがあるでしょう)。significant (形容詞:重要な意味のある)。impact (衝撃・影響・効果・衝突・ショック)

2-1 Wow, what happened? First period is already over.

**意味:** わー、一体どうしたの？ 1限目はもう終わってしまったよ。

**【同時通訳】** Wow (うわー), what happened? (どうしたの?) First period is (1限目は) already over. (もう/すでに終わっている)。

**【類似表現】** 「何が起こったの？」には、以下の3種の表現があります。

(1) What happened? この文は、使用頻度が最も高い。疑問文なのに、What (主語) + 動詞 (happened) に ? を付けただけ。

(2) What did happen? この文は、(1)と似てますが、did が加わっています。この did は、実際に何が起こったのかと、問い詰めたり、説明を求めるニュアンスの場合に使います。使用頻度は低いです。

(3) What's happened? この文は What has happened? の省略形で現在完了です。

この文は、例えば外で爆発音を聞いてから、現場に向かい、状況を見て、周りの人に戸惑いながら訪ねる

ような場面です。英国では (1) の意味でも使われ、かなり一般的です。

【表現】 驚いた場合には、wow!= boy!= gee!、などが会話表現としてよく使われます。

【注意・文法構造】 First period is already over. (1限目はは終わったよ)。この文は、1限目が終わったのは、過去の話なので、is over ではなく、was over だと思おう方もいると思われます。学校文法では誤りの可能性が高いです。しかし、現実では is over が使われ、was over は不自然と考えられています。

【理由】 時間的な事実は「過去に授業が終わった」のですが、話し手が焦点を当てているのは 現在の状況 (授業は終わっている、と言いたい) なので現在形を使います (現在完了に「近い考え方」です)。

★ 一方、was を使う場合: When I arrived, the class was already over. この文は、過去の事実を、現時点で客観的に表しているだけで、現時点とのつながりの意図はありません。

## (Advanced: war)

【同時通訳】 Even in democratic countries (民主主義国家でさえ), people sometimes enthusiastically support a leader (時々人々は熱狂的に指導者を支持する) with dictatorial ambitions (独裁的な野心を持っている), simply because (ただ~と言うだけで) the candidate speaks persuasively. (その候補者が説得力のある発言をする)。

【文構造】 a leader with (~を持った/備えた指導者)。「simply because~: ~と言う理由だけで」この句の後には主語+動詞の節が続きます。

【同時通訳】 And once such a leader (そしてそんな指導者が一端~すると) takes power, (権力を手にすると) the danger grows quickly (その危険性は急速に増大する)。。

【文構造】 この文を仮定法(過去)に変形してみると、If such a leader took power, the danger would grow quickly. となります。Once は if に変えます。★★ once」は「~するとすぐに」「~したら」と言う意味の時間の副詞節が続く語で、「未来のことも現在形で表す」ことが重要です。

【同時通訳】 They have often pursued (彼らはしばしば追求した) personal gain (私利私欲を), silenced opposition (反対派を黙らせ), and even controlled (そして~を掌握さえした) the Supreme Court (最高裁)。

【文構造】 この文は、They have pursued~, silenced~, and even controlled~. と事実を列挙しています。簡明で説得力があります。

【同時通訳】 Some of them (彼らの中には~な者もいる) launched unnecessary wars (不要な戦争を起こす) that spread chaos (それは混乱を広げる) far beyond their borders. (国境をはるかに超えて)。

【表現】 launch war: 準備を整えて意図的・計画的に戦争を始めるという意味で、単なる start war とは異なった意味に持ちます。